第 2015-19 号

恵みと真理のニュース

2015 年 5 月の二次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］

病気をとおして神様の驚くな愛と摂理を感じ 限りない感謝と賛美を捧げます。

わたしたちの一時の軽い艱難は、比べものにならないほど重みのある永遠の栄光をもたらしてくれます。わたしたちは見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます。見えるものは過ぎ去りますが、見えないものは永遠に存続するからです。（コリント信徒への手紙二　4：17,18）ハレルヤ！

私は完治にならない重い病気に患っている中でも神様に感謝を捧げます。脳水腫という病気です。特別に私の場合医学的に治らなくてこれからも健康な人々のように活動できないと診断を受けました。しかし、健康な人のように活動しながら教会で奉仕をしています。神様の恵みです。

病気を持って生まれたから誰よりも神様を信じ委ねながら生きて来ました。耐えられないほど痛んだ時には自分のため十字架の苦難を受けたイエス様の犠牲と愛を考えながら忍耐しました。イエス様が受けた痛んだ苦難を考えるとただ感謝するたけで神様に不平することは出来ません。以前外国の宣教団体が病気で痛んでいる人の治療と手術を助けるため国内で行なう医療宣教のプログラムで参与する機会が与えられました。どころが支援者が多くて1年6ヶ月が過ぎた後、スンチョンにある病院で診療を受けました。しかし、手術は脳性麻痺の診断と手術も受けられないと判定されました。しかし、絶望しなくて治療を諦めませんでした。祈りながら神様を仰ぎたら助けてくださり不可能だと言われた手術を受けました。結婚の前神様の恵みと摂理でブサンにある大学病院で6時間かけて腹腔鏡下手術を受けました。この病気を患っている患者は頭を手術しますが私は感謝する事は腰の腹腔鏡下手術を受けました。手術が良く出来て完治されなかったですがこれからは悪化されないからです。

結婚してから神様は私に尊い二人の息子を与えてくださいました。私の病気が子供に病気に譲るのではないか妊娠した時から悩みましたが健康な二人の息子を産みました。病院で赤ちゃんが健康に以上がないか確認して驚きました。嬉しくて神様の恵みと愛に真の感謝を捧げました。祈りと願の通り二人とも健康に育ちました。今長男は 一番大きい重工業会社で就職してから軍隊で働いています。二番目の息子も軍隊の恵沢で会社に就職して熱心に職場生活をしています。このように足りない私を選んでくださり二人の息子を守ってくださり神様の恵みに感謝します。

また神様は私に児童区域長の職分を与えて下さり病弱な聖徒と隣り人に体験した神様の恵みと愛を仕えながら勇気と力を与え福音を伝えます。たとえ肉体的で完全に治らなかった体ですが信仰と従順で主のことで力を使う私に神様は経済的に祝福を与えて下さり大きい家も買えました。

人がこの世で生きる間イエス様を主とキリストを信じて受け入れ永遠な命を得ることが一番先で最古の祝福になることを確信します。彼と共に私の家でイエス様を信じる家庭とそうではない家庭をみながら多様で豊かな主の恵みが望まれることを悟りました。それでもっと主と愛と哀れみの心で信じない家族と親戚を伝道にも力を尽くしています。

主に限りない喜びも下さるが時には自分が耐えられるほどの十字架を与えます。そして相変わらず主だけを信じて委ねて結局助けてくださいます。私に生きる理由と希望を下さり共にいる主の恵みに感謝と賛美を捧げます。脳性麻痺を患っているある詩人の歌と詩篇記者の賛美で今日私の信仰と神霊な喜びを告白します。

“幸せなさい。　幸せなさい。私は幸せ。愛である主が信仰の顔で私をご覧になると木と人と草も愛して豊かではないが持っている物がないが満足し友達も愛し小さい心でも喜び溢れるように主が愛の笑顔を見せてくださった。幸せなさい。幸せなさい。主によって私は幸せる。”

主は羊飼い、わたしには何も欠けることがない。主はわたしを青草の原に休ませ／憩いの水のほとりに伴い。魂を生き返らせてくださる。主は御名にふさわしく／わたしを正しい道に導かれる。(詩篇23：1～3)

［信仰コラム］　剛愎になることことを免れと

″…きょう、あなたがたがみ声を聞いたなら、荒野における試錬の日に、／神にそむいた時のように、／あなたがたの心を、かたくなにしてはいけない。
…″(ヘブライ人への手紙 3:7~14)

人を不幸にする原因を列挙して分類して見ようとすると、そう簡単じゃないです。 その種類も多く、各人の立場と観点によって理解を異にするかもしれないからです。 しかし、私たちが何が不幸であり、何が不幸の原因が何かを分別して把握する必要があります。そうすることでこれを克服して予防し、治癒するなど、積極的な対処をできるようになります。 聖書はこのようなことについて原則的かつ根本的な答えを教訓しており、問題点を指摘するだけでなく、明確な解決策も提示しています。 そのうち、本文の言葉を見ると、’剛愎になること’、まさにこれが人を不幸にする原因であることを知ることができます。

第一に、剛愎は何かを調べてみます。

聖書で’剛愎’と翻訳された単語は″反抗する。″″頑固にする。″は意味があります。 ’剛愎さ’という意識的で意志的に自分の位置、見解を強固にする態度であり、また能動的かつ主体的な態度です。 聖書で見ると、主に神様の前での反抗的な人間の態度に対して使われています。 人間関係でも心が剛愎な人は彼が属する社会を不便にして苦痛にさせて人々に忌避の対象になります。 ところで神様をついて心が剛愎な人はもっと大きな不幸を招来します。

第二に、人が神様について剛愎に行う理由が何かを調べてみます。

第一は、驕りが心を剛愎してします。 その代表的な例としてエジプト王、まさにを挙げることができます。ところでは心が剛愎て神様が送ってなさったモーセとアロンの言葉を聞かないしました。 災いが取り組む間には屈服するかのようだったが、過ぎ去れば二度と剛愎になりました。 すぐの剛愎な心は彼のプライドからとって名付けたものです。 第二は、貪心が人の心をカンピャクケします。 貪心を持つようになれば、神様の言葉を自己中心的に解釈することになります。自分が行ったことを妥当化させようとします。 時間が経つほど、神様の意志に逆らって行なうのが慢性になって心霊や霊的な感覚が鈍くます。 第二は、無知が心を剛愎してします。 パウロは使徒になる前にキリスト教徒たちを怖がらに逼迫して教会を迫害しました。 パウロは彼が以前にあれほど剛愎たのがとてもによることを吐露しました。(テモテへの手紙一 1:12、13)精神的無知は神様の前で剛愎な心を持つようにし、不服従させます。

第三に、私たちが剛愎になることを免れるためにどのようにするべきかを調べてみます。

お互い権免れなければなりません。 聖徒らが集まり機を努めなければならない理由もここにあります。神様のお言葉を聞いて学べるために必要として、神様の言葉として、権免れるため、お互いに心房して出会うべきです。。 初めて信頼、愛を維持して回復するために努力しなければなりません。 一方、私たちは剛愎になることを免れるようにしてほしいと神様に祈念しなければなりません。 神様がすぐの剛愎さをそのままほったらかしました。 また、恨み不平を言うイスラエルの子孫たちについて″しかしわが民はわたしの声に聞き従わず、イスラエルはわたしを好まなかった″(詩篇 81:12)としました。 実に私たちを神様が放置しておいたら私たちも生まれつきの本性と罪の誘惑によって剛愎さを免れることはできないでしょう。神様の恩恵がなければ、韓国が剛愎になることを免れることはできません。 したがって、神様に謙遜に唱えて祈念することを忘れてはいけません。

心が剛愎になること自体が刑罰であり、審判の始まりです。 エジプトで出てカナーンへ行ったイスラエルの民がそうしました。 心が剛愎になれば、神様からもらった福と恩を受けられないだけでなく、受けた福と支援までも喪失することになります。 皆さんは剛愎になることことを免れて一様な姿勢で信仰生活を営んでキリストが予備してくれる企業と栄光に参詣することになって下さい

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

聖 霊 の 実

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

罪人が聖徒になって聖徒らしく生きて行き驚きべきを話そうとすれば聖霊がなさる仕事に対して言わざるを得ないです。 聖霊は罪人をとがめて悔い改めてイエスキリストを信じて生まれかわるようになさいます。 聖徒の中にいらっしゃりながら教えて導きながら助けて慰めながら治療します。 そして神霊な賜物をくださって胆大さと熱心で福音を伝えるようになさいます。 それだけではなく聖徒らしい品性を持つようにします。 聖霊様のようになる性分を示して聖霊の実と呼びます。 イエスキリストがおっしゃるのを “わたしにつながっていなさい。そうすれば、わたしはあなたがたとつながっていよう。枝がぶどうの木につながっていなければ、自分だけでは実を結ぶことができないように、あなたがたもわたしにつながっていなければ実を結ぶことができない。”（ヨハネによる福音書 15:4）しました。 イエスキリストの中にいる者には聖霊様によって結ぶようになる実があります。 “ただ 御霊の実は、愛、喜び、和平、寛容、慈愛、善意、忠実、柔和、自制であって、”と言いました。

第一は、愛です。

聖霊の実である愛はイエスキリストによる神様の愛を受け入れた者の性分に現われる実です。その愛は神様の愛と隣りの愛という二つの方面で現われます。 神様を愛するようになればなによりも神様を礼拝することを楽しがります。キリストの恵みで私たちを救いした神様を向けて礼拝させていただきます。 イエスキリストだけが救世主であるという信仰によって礼拝させていただきます。 聖霊の実である隣り愛は不信者に福音を伝えなくてはたまらないようにします。 人が救いを得ることができなければ神様の震怒と審判を受けて地獄の刑罰に処するようになるからです。 礼拝するのを楽しがって、困難と犠牲を忍耐して福音の伝道に力をつくすことは神様の愛と隣りの愛によったのです。このような愛は聖霊の実です。

二番目は、喜びです。

聖霊の実である喜びは霊と肉体の間に恵まれて有益です。 パウロ使徒はイエスキリストの中にいる人はいつも喜びなさいと言いました。“すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって、神があなたがたに求めておられることである”（テサロニケ人への第一の手紙 5:18）しました。 パウロ使徒は聖霊の実である喜びを一杯享受しました。パウロはシルアノとともに ピリピで福音を伝えて告発されてむちをたくさん当たって監獄に閉じこめられました。 ところで真夜中にパウロとシルァノが起きて讃尿を呼び始めました。彼らの心の中に喜びがあふれて讃尿しました。こんな喜びは聖霊の実です。 聖徒の皆さんは当面するどんな仕事でもイエスキリストにあって解釈して意味を探してください。 そしてそのすべてのものが主の中で楽しむことができる素材であることを悟って楽しんでください。その楽しみが聖霊の実です。

三番目は、和平です。

人が経験するようになる一番大事な和平は主イエスキリストによって神様といっしょに享受する和平です。（ローマ人への手紙 5:1）コロサイ人への手紙 1 章に記録されるのを “神は、御旨によって、御子のうちにすべての満ちみちた徳を宿らせ、 そして、その十字架の血によって平和をつくり、万物、すなわち、地にあるもの、天にあるものを、ことごとく、彼によってご自分と和解させて下さったのである。”（コロサイ人への手紙 1:19,20）しました。キリストイエスを信じて罪の赦しを得た聖徒が神様といっしょに享受する和平は聖霊の実です。聖徒がすべての心配を神様に任せることで得ることになる平安も聖霊の実です。 ピリピ人への手紙 4 章に記録されるのを “何事も思いわずらってはならない。ただ、事ごとに、感謝をもって祈と願いとをささげ、あなたがたの求めるところを神に申し上げるがよい。そうすれば、人知ではとうてい測り知ることのできない神の平安が、あなたがたの心と思いとを、キリスト・イエスにあって守るであろう。”（ピリピ人への手紙 4:6,7）しました。

四番目は、 寛容 です。

神様のお言葉を信じて従順した結果を見るために必ず必要なのが忍耐です。 聖書に約束されたお言葉がこのようです。 “わたしたちは、善を行うことに、うみ疲れてはならない。たゆまないでいると、時が来れば刈り取るようになる。”（ガラテヤ人への手紙 6:9）と “だから、なんら欠点のない、完全な、でき上がった人となるように、その忍耐力を十分にはたらかせるがよい。”（ヤコブの手紙 1:4）福音を伝える人は忍耐しなければなりません。 神様を仕えて奉事する人は忍耐しなければなりません。苦難にあった人は忍耐しなければなりません。寛容は神様を徹底的に信仰することから始まります。 神様をたよっている寛容は聖霊の実です。

五番目は、慈愛です。

慈愛にあたる聖書の原語は ‘寛容、柔らかさ’などを意味します。 人は誰もか弱くて不足な点があるものと決まっていることを勘案しなければなりません。 自分に過ちを犯した人に慈愛深く対しようとすれば心に余裕がなければなりません。 スデバノ 執事が迫害者から石に当たって死んでところで “神様、この罪を彼らに帰さない。” と祈りました。 彼は殉教の直前に天が開かれて神様の光栄とイエスキリストが神様の右に立つのを見ました。 聖霊は私たちを神様の側から思って判断するように手伝ってくれます。 そして慈愛を施すことができさせます。 このような慈愛は聖霊の実です。

六番目は、善意です。

善意だと翻訳された原語と慈愛と翻訳された原語は皆 親切を意味する言葉です。 しかし慈愛と善意は差があります。 イエス様がエルサレム聖殿へいらっしゃった時でした。 聖殿の中で牛と羊と鳩を売る人々とお金替える人々を見るとイエス様は腰縄でむちを作って羊や牛をすべて聖殿から追ってお金替える人々のお金をこぼして机を伏せました。 そして彼らにおっしゃるのを “私の父の家で商売する家を作らないで。”と しました。 イエス様のこのような行動が善意の意味を説明してくれます。 善意は正しく譴責して教政してくれるのにまでのぼる親切を意味するのです。

神様の善良で喜んで完全なみ旨を従って判断して譴責して直してくれるのにまで親切を施すのが善意です。 このような善意は聖霊の実です。

七番目は、忠実です。

聖霊の実である忠実は神様を嬉しくしようとする心から始まります。 イエス様のダルラント比喩がこれをよく言ってくれます。（マタイによる福音書 25:14-30）
ある人が外国へ行きながら、しもべを呼んで自分の所有を任せました。 金五つダルラントを受けたしもべと二つのダルラントを受けたしもべはまっすぐに行ってそれで商売してそれぞれ五つダルラントと二つのダルラントをもうけました。 帰って来た主人は彼らを忠実されたしもべであると誉めてくれました。 一方一ダルラントを受けた人はそのお金をそのまま隠して置いたのを帰って来た主人に持って来ました。主人はそのしもべを叱りつけて追い出しました。主人の判断と評価は利金の大きさにあるのではないです。 善良で忠実されるにあります。 誉められた二人のしもべは主人に喜ばれようとする同期を持ってまっすぐに行って商売したし、一ダルラント受けた人はそんな心が全然なかったです。神様を喜ばれるしようとする心で引き受けた仕事を信実するように行う忠実は聖霊の実です。

八番目は、柔和です。

聖霊の実である柔和は神様のみ旨とお言葉の権威の下に従うことに関わっています。 イエス様の弟子であるペテロとヤコボとヨハネには共通的な欠点がありました。 イエス様のみ旨を考えなくて速断するとか自分の主張を立てる性格がありました。 しかし彼らが聖霊満ちるのを受けた後には性分が大きく変化されました。ヤコボは殉教者になりました。 ヨハネは新約聖書の中に五つ冊を記録しました。 彼の手紙を読んで見ればヨハネの性分が柔和に変化されたことが分かります。 ペテロも神様の旨に黙黙と従順しながら暮しました。 彼は自分の間違いに対してパウロが公開的に咎めた時もその責望つけるのを受けました。 柔和になったのです。 神様のみ旨とお言葉の権威の下に完全に従順する信仰から始まるこのような柔和は聖霊の実です。

九番目は、自制です。

すべての事において分数を守るのが自制です。自制は私たちの生に調和と均衡を成すことができさせます。 聖徒は無理強いや無理や貪欲と宴心で行わないためにいつも神様の導くことと許諾なさるのを察しながら行動しなければなりません。 神様がイスラエル民が荒野に行進する時雲の柱を送って雲が浮び上がれば進行して雲が浮び上がらなければとどまっていさせました。 神様の導くことと許諾なさるのを察してここに順応することから始まる自制は聖霊の実です。

イエスキリスト外でも修養と人格陶冶で 愛、喜び、和平、寛容、慈愛、善意、忠実、柔和、自制であっての品性を涵養することができます。しかしそれは聖霊の実ではないです。 聖霊の実はイエスキリストと神様のお言葉に関わって、聖霊が関与して主導して私たちの品性に現われるのです。 ただ聖徒はむかしの人の本性である 情と欲心を十字架に釘を付けった者になった事実をいつも認識しなければなりません。そしてむなしい光栄を追い求めてお互いにくやしくて残念にさせるとか ねたみないようにしなければなりません。 イエスキリストを信じて聖徒になった皆さんにはもう聖霊の実があります。 しかし聖霊の九つ実がもっと豊富になるように願いします。